平成 30 年 7 月豪雨　救護班（初動班）活動報告

13A 病棟看護師 山口紗由記

被災された岡山県倉敷市に 7/12 から 15 日まで大阪府支部救護班第 1 班として出動させて頂きました。活動初日は倉敷市の保健所にある災害対策本部で被災状況の現状把握を行いました。避難所も開設されて間もない状況で被災者が少しでも苦痛を軽減できるような環境づくりが必要であると感じました。活動初日は玉島地区の避難所のアセスメントと巡回診療を行い、2 日目より真備町にある岡田小学校で診療に携わらせて頂きました。避難所へ車で移動していたのですが真備町に入った途端、私はその景色に愕然としました。派遣される前、テレビで被災地を見たりしていましたが、実際の被災地は災害の爪痕が酷い状況でした。被災者は豪雨で家が浸水したため、片づけを行い、夜間は避難所で生活されていました。救護所の診療には呼吸器・眼・皮膚疾患、熱中症の方が来られていました。診療中、被災した状況の写真や動画を見せてくれ、「家が浸水したため家の 2 階まで移動し救護されるまでの 2 時間震えながら過ごした。」「人生でこんな経験するとは思わなかった。」「辛いけど家族や仲間が支えで頑張れる。」と涙を浮かばせながら話をしてくれる姿が印象的でした。被災・避難所での生活・今後の不安など被災者が疲弊している姿があり、精神面のケアも必要であると感じました。今回救護班として初めての派遣で、不安でいっぱいでしたが、自分にできることは何かを考え活動しました。実際、自分たちにできることは少なかったですが、救護班メンバーと適宜話し合いながら、少しでも被災地の支援ができるように考え活動できたと思います。これからも自分たちができることを考え、赤十字救護班として支援していきたいと思います。